

平成 25 年度 自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書

柴田町立船岡小学校

1 評価期間 平成 25 年 12 月～平成 26 年 2 月

2 学校関係者評価委員

佐藤 安徳 (委員長), 斎藤 ひとみ (副委員長), 阿部 光雄, 佐藤 力雄, 我妻 智晃, 八巻 祐子

3 評価規準

- | | |
|---------------|------------------------------|
| ○妥当である。 | (適切な取組で、次年度へ向けての取組も妥当である) |
| ○妥当でない。 | (取組が不十分で、次年度へ向けての改善策も妥当でない。) |
| ○判断することができない。 | |

※自己評価の数値の算出方法

教職員の自己評価で、A：大変良い・・・10点、B：良い・・・5点、C：課題がある・・・-5点、D：かなり課題がある・・・-10点とし、各項目の合計点数を教職員数で割った値。

4 評価項目

1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進

	自己評価	関係者評価
(1) 学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	5.6 (↑0.1)	妥当である
(2) 学校の教育内容や実践を、保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。	6.1 (↑0.2)	妥当である
(3) 保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。	5.4 (↓1.0)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(3) の評価が低下しているが、今年度は6年生の学習で船岡に住まわれている方に戦争体験を話していただく機会を設けた。書籍やインターネットではなく本人から直接話を聞くことで、身近にあった出来事として捉えることができた。来年度も積極的に地域人材を活用し教育活動を充実させていきたい。	・自己評価が少し低いような気がする。もう少し高くてもいいと感じている。	

2. 「学力向上」と新学習指導要領の趣旨の徹底

	自己評価	関係者評価
(4) 「学力向上」を目指して、指導方法の工夫・改善を図るとともに、個性を生かした楽しく分かる授業の実践に努めている。	4.3 (↓0.9)	妥当である
(5) 学習意欲の向上と生活習慣・学習習慣を改善し、主体的な学習を促して基礎学力の向上に努めている。	3.7 (↓0.4)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(4) においては個々の児童へ対応する時間がなかなか取れないという反省のもと評価が低下しているが指導方法の工夫・改善については昨年同様しっかり行っている。どの児童へも楽しく分かる授業を目指し来年度も頑張っていきたい。(5) については生活、学習習慣ともに継続することで改善できるものと考えている。担任が変わっても対応が変わらぬよう、教師同士が共通理解し継続した指導ができるようにしていく。	・先生方も工夫して授業を行っている。	

3. 豊かな人間性を育む道徳教育の充実

	自己評価	関係者評価
(6) 「道徳の時間」の実施時数の確保と指導方法の工夫改善を行い、道徳的実践力を高めるとともに、教育活動全体を通じた道徳的実践意欲の向上に努めている。	4.4 (↑0.8)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(6) 毎週 1 時間の道徳授業を大切にしながら、道徳的な実践力を高める努力をしている。また、1年生と6年生の交流など、学年間を越えた交流を行うことにより、互いに思いやる気持ちを育成できてきている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会など、様々な行事を見ていると指導の成果が見て取れる。 ・たてわり活動は今後も継続してほしい。 	

4. 生命の尊重と社会性の育成を図る生徒指導の充実

	自己評価	関係者評価
(7) 「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない学校づくりに努めている。	5.6 (↑0.1)	妥当である
(8) 児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し、家庭と連携して基本的な生活習慣の育成に努めている。	5.2 (↑1.3)	妥当である
(9) 児童生徒に自己の特性を、理解させるとともに能力・適性や興味・関心等に基づいて将来の生き方を考えさせる志教育・キャリア教育の充実に努めている。	4.8 (↑1.2)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(7) については最重要事項と考え(8)の内容も含めながら、保護者と教職員が連携、協力しながら年間を通して取り組んでいる。次年度もしっかり取り組みたいと考えている。(9)については、生き方について考える機会として、楽天イーグルスの出前授業や元ワールドカップ選手のサッカー教室、バイオリン職人のアウトリーチなど、その道の第一線で活躍している方を招いて話を聞く機会を積極的に設けた。来年度も様々な形で志教育の充実を図っていこうと考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・志教育やキャリア教育は県の教育委員会でも力を入れているし「いじめ0宣言」を県PTA連合会でも行っている。今後も保護者にそのような取組を伝えていただきたい。 ・震災を含め、いろいろなことがあり、今の子どもたちには助け合う気持ちができてきている。 	

5. 安全・安心な教育環境の整備・促進

	自己評価	関係者評価
(10) 児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や「防犯教室」を実施して児童生徒の安全確保に努めている。	4.8 (↓0.7)	妥当である
(11) 地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を実施している。	6.3 (↓0.1)	妥当である
(12) 「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している。	7.4 (↑0.3)	妥当である
(13) 生涯体育・スポーツの視点に立ち、健康でたくましい児童生徒の育成に努めている。	4.8 (↑2.3)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者による主な意見	
(10) 適切に防犯訓練を行っているが、校内放送機器の不具合などにより、連絡がうまく取れないなどの課題が残った。迅速で正確な連絡が行えるよう環境整備も含めて取り組んでいきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけではなく、総合的な避難訓練を行った方がよい。 ・充実した見守り活動をしたいと思っているので、人数を増やしたいと思う。 	

6. 特別支援教育の充実

		自己評価	関係者評価
(14)	「特別支援コーディネーター」を中心に、児童生徒一人一人のニーズに応じた指導を行っている。	3.9 (↑2.1)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(14)	多様な児童への支援をコーディネーターと担任が連携しながら行ってきた。今後、支援の必要な児童の個々の状況を教職員全体でしっかり把握し、一人一人の良さが伸ばせるよう支援していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・努力している。しかし様々な個人差があるので現状は大変であると思う。 ・校内の力だけでなく、民生委員の方との連携もしていくべきだと思う。 	

7. 国際理解教育の促進

		自己評価	関係者評価
(15)	自国文化に対する理解を深めるとともに、他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている。	4.1 (↓0.3)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(15)	外国語活動は計画的に実施し成果が上がってきているが、それ以外ではなかなか国際理解に触れる機会が少ないのが現状である。他の教科でも関連性があるときは意識的に国際理解について考える時間を設けていきたいと考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

8. 情報教育の推進及び学校図書館の充実

		自己評価	関係者評価
(16)	高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている。	4.4 (↑0.3)	妥当である
(17)	学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	7.2 (↑1.7)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(16)	インターネットを中心に、授業での情報機器の活用がさかんであり、必要な情報を素早く調べることができる児童が増えてきている。(17)の項目については、これまで図書ボランティアの方が協力してくれていたが、今年度はさらに司書が入ることにより今まで以上に使いやすい図書室になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの怖さについてはぜひ指導していただきたい。 ・家で本を読まないのは学校でどうこうできる事ではないので仕方がないことのように思う。 	

9. 学校校地の自然環境の整備と自然体験学習の推進向上

		自己評価	関係者評価
(18)	校地内に花と緑の潤いのある教育環境をつくとともに、児童生徒の自然体験学習の充実に努め、自分たちの住んでいる地域の自然環境を守り大切にしようとする心の育成に努めている。	3.9 (↑0.5)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(18)	学校行事のクリーン作戦では自分たちの学校をきれいにしようとする積極的に取り組む姿が見られた。反面、校地内の花壇の管理について、除草等の管理不足が見られたので環境教育や委員会活動の一つとして計画的に取り組めるよう支援していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童だけでなく、もっと保護者の協力をいただいてもいいと思います。 ・自分の町を愛する町民を育てていかなければならない。 	

10. 教職員の資質及び指導力の充実・向上

		自己評価	関係者評価
(19)	教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに、学校課題の解決を図る校内研究・校内研修を積極的に推進している。	5.7 (↓1.8)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(19)	今年度も校内研究は算数科の指導について、各学年の研究授業を見合いながらよりよい授業のため、検討を計画的に行っている。来年度は研究の3年計画最終年度であるので、これまでの2年の成果をもとにさらに楽しく分かりやすい授業を目指して取り組んでいきたい。	・特になし	

11. その他

		自己評価	関係者評価
(20)	子供たちと一緒に話をしたり、教育相談をするなどのふれ合う機会を多くつくっている。	5.2 (↑1.1)	妥当である
(21)	子供たちは学校へ来るのを楽しみにしている。	4.8 (↑0.3)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(20)	の項目は、昨年度向上したがさらに今年度も評価を上げている。水曜時程を活用し意図的に児童とのふれ合う時間を確保したり、放課後に児童の相談できる時間をとったりしてきた。そのような取組が結果的に(21)の項目の評価の向上にもつながっていくことと考えている。来年度も継続して取り組みたい。	・授業時間などを考えると、子どもたちとふれ合う機会、時間を確保するのは大変なことだと思うががんばってほしい。	

12. 教育目標について

		自己評価	関係者評価
(22)	教育目標「豊かな心をもち自ら考えるたくましい児童」が、学校の教育活動において具現化されている。	4.0 (↓1.0)	妥当である
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者による主な意見	
(22)	各学年が、学校教育目標へせまるための具体的な方針を立てて取り組んできた。あいさつ運動やたてわり活動など、子どもたち同士の交流を重視した取組も行い教育目標達成を目指し努力してきた。	・特になし	

◆その他: 学校関係者による主な意見

- ・年々、しつけや安全の確保を学校まかせにしている保護者が増えてきているのが残念です。
- ・見守り隊の皆様、そして毎朝通学路で子どもたちを見守っている校長先生には感謝の気持ちです。
- ・秋田が学力全国一位なのは、学校と家庭との信頼関係が大きな要因だと聞いたことがあります。学校家庭地域が一体になって子どもたちを見守る事が学力向上につながってくれる事を期待しています。
- ・今年度の様子を見ていて、先生方の向上心が感じられた。
- ・これからも幼稚園、小学校、中学校の連携を深めてよりよい教育を進めてほしい。